

生きた学習の体験

通信教育コース 米澤 猛士

勉強開始から約一年が経ち、そろそろスクーリングへと考え始めた矢先、3.11の震災。仙台～東京間の移動手段が絶たれ、参加できるか不安だったが、何とか復旧し実現可能になった事は幸いだ。感謝だ。

思い起こせば中国の文化には幼少の頃からなじみがあり、特にカンフー映画が大好きだった。それにちなんで興味本位で武術について調べた事がある。武術の世界では「口伝」が重要だと言う。書物には現れてこないちょっとした事。腕の微小な角度、数cmの足の配置。これが実は奥義であると。これは師に丹念に修正されて会得できるものらしい。

この様な生きた指導がない事が通信教育の弱点であり、それをカバーするためにスクーリングを設定しているのだと理解している。

今回のスクーリングは、「教科書の行間に埋もれている何かを得る！」これが目標であった。しかし、こんな高尚な目標を立てたにも関わらず教科書にキッチリ書いてある事すら覚えていない事が明らかに！お恥ずかしい限りである。

しかし、発音されて耳に届く「言葉の力」の効果は大きい。先生がお話下さった中医・薬膳にまつわる逸話の数々の中には感じる事は多々あった。特に次に挙げるお話が。

老中医師の指摘—「きれいな字を書かなければ認めてもらえない」

これは耳が痛い。普段文書を書くときはもっぱらパソコンであるため、筆を取って字を書く能力は明らかに劣化している。さらには、いつしか字を書くスピードもパソコンと同じ速さじゃないと時間をもったいないという観念にかられはじめていた事に気付いた。そう、これは事が終わればポイと捨ててしまうメモの書き方であり、頭に叩き込む書き方ではない。悪い癖がついているのだ。結果、書く字に気持ちがこもっていないために教科書に書かれている中医学用語も覚えられない。老中医師の先生に、劉先生を通じて「この悪癖を直さないといかんぞ！」と指摘された様な気がした。とは言え、言葉は使わなければどんどん忘れてしまうもの。普段の会話にも取り入れてみようか。

あと、調理実習は楽しかったな。大人数で料理したのは小学生時の家庭科以来だ。たまに料理はするものの一人で黙々とするだけなので。一般的に美味しくできたと思う。熱がりの自分にとって冷え性の薬膳は熱かったが、効果を実感できたのは有意義だった。

実に充実した3日間だった。今後の学習もはかどりそうだ。

2011年度 夏期スクーリング

2011年7月15日～17日
本草薬膳学院 9F

今回参加された通信コースの生徒達。皆初対面でしたが、この3日間ですっかり仲間に。

平成23年度 夏季スクーリングに参加して

通信教育コース 吉田 繁子

通信教育を開始して約1年でどうか第6回分テスト迄をクリアし、いよいよ第7回テストからのメニュー作成にとりかかりました。ところが、それまでの学びの理解と勉強の不徹底が災いし、第7回テスト提出が2回不合格で返却されました。2回も返却されますと、やはりこれは早くスクーリングに参加して、自分の「薬膳」に対するイメージや思い違いを明確にしないといけないと、慌てて申し込みました。そして、スクーリングに参加出来る旨連絡を頂き、横着にも勉強を少し中止し、心待ちにしておりました。

ところが6月下旬頃になり、3年前に大腸がんの手術をしていた夫が、今度は胃がんという事で、7月7日入院がバタバタと決まってしまう

ました。一応内視鏡で表面を取り、その後組織検査をしてから短期入院か、長期入院かが決定されることになりました。場合によっては1日も受講出来るのか、もし全面的に受講出来なければ授業料は次回のスクーリングに回して頂けるのかななど事務局へお尋ねしたところ、事務局のほうからは受講の分散可、授業料も冬のスクーリングに回して下さるとのご返事と温かい励ましを頂き、不安な状況で張りつめていた私は思わず涙ぐんでしまいました。

お陰さまで手術は成功し、心を残したままですが、主治医と息子夫婦に任せて上京することが出来ました。

スクーリングの3日間はまことに濃密な日々でした。受講生の皆さん

はこの暑さの中でも居眠りする人もなく、熱心に受講されていました。やがて10回目の倍数(7の)を迎える私は、聞いたすぐの理解はまあまあでも、頭に定着しにくく、劉先生から質問をされた時も全く答えることが出来ませんでした。しかし、演習で白板に向かって献立を書き、劉先生の懇切丁寧な評価を頂きますと、すっきりと頭に入ってきました。つくづく参加出来てよかったと感謝するとともに、ご迷惑をおかけした14名の新しい同士(?)の方々にも心よりお詫び申し上げます。

